

学びを支える学習基盤づくり

～子どもに達成感と充実感を与えるために～

確かな学力の向上には、授業づくりや体制づくりとともに、学び合いながらともに高め合うための学習基盤づくりが不可欠です。そのためには「学び方」や「学習サイクル」など、学びを支える観点から子どもの姿を見つめ直すことが大切です。発達段階に応じた学習の基盤づくりに家庭と協力しながら取り組み、子どもたちが学び合い、高め合う学級集団の中で達成感と充実感を味わうことができる子どもを育みましょう。



効果的な「学び方の習得」

◎「学び方」が身に付いた子どもの姿とは

- 勉強のやり方が分かった
 - 分かるまでがまん強く勉強している
 - 答えの意味を考えながら覚えようとしている
 - 同じ間違いをしないように気を付けている
 - 困ったら先生や友達に聞くようにしている
- つまづいても自分で解決できた
 - 間違ふことは当たり前だと思っている
 - 解決する方法を知っている
 - 分からないときに自分で調べている
 - 間違ふた問題をもう一度解いている

身に付けたい『学習規律』『学習習慣』の確立

◎『学習規律』と『学習習慣』が身に付いた子どもの姿とは

- 授業の約束を守ることができた
 - チャイム前に準備物を整えて席に座っている
 - 友達の発言に耳を傾け、最後まで聴いている
 - 発言は手を挙げ、名前を呼ばれたら返事をしている
 - 聞き手によくわかる声ではっきり話している
- 学習と生活のリズムがしっかり整っている
 - 家庭学習の時間と場所が決まっている
 - 予習・復習の内容を決めることができる
 - 提出物の期限を守っている
 - メディアの使い方の約束を守っている



達成感！ 充実感！

学びがつながる「学習サイクルの確立」

◎学びがつながっている子どもの姿とは

- 授業の内容がよく分かった
 - やる気が湧いてきた
 - 自信をもって発表できた
 - 勉強したことを家で話したい
- 家庭学習が授業で役に立った
 - 先生の質問の意味が分かった
 - 友達にも「すごいね」と言われた
 - 予習すると授業がおもしろいことが分かった



学びに生きる「読書活動の推進と習慣化」

◎読書活動が習慣化された子どもの姿とは

- 役に立つから本を読もう
 - 今まで知らなかったことが分かった
 - 心が豊かになる気持ちを味わえた
 - 朝読書したら集中して授業がスタートできた
- 面白かったからまた読みたい
 - 図書室は居心地がいいから行ってみよう
 - 自分で読みたい本を選ぶことができた
 - 読みたい本がいつもそばにある
 - 気が付いたら一冊読み終えていた



◇ 達成感と充実感を与える支援とは？

- 求める子どもの姿の共通理解を図っている
- 間違った原因を子どもと一緒に考える
- いつ何をどうするのか納得して理解させる
- 教師が率先して子どもの話を受容的に聴く
- 守るべき約束を家族と連携して決める
- あきらめずにやり通したときに褒める

※ 苦しさを乗り越えてこそ喜びがある！